

# ヘルプカードの理解啓発

- ♥ ヘルプカードは、障害者理解の手だての一つになります。
- ♥ 「共生社会」の実現に向けて、都立特別支援学校においても、ヘルプカードの普及啓発に努めていく必要があります。



## 小・中学校等への理解啓発

### ♥ 副籍制度を利用した理解啓発

- 「理解推進授業」(出前授業)の中でヘルプカードを紹介し、以下の内容について分かりやすく説明します。

- 障害のある人(支援を必要とする人)が持っている。
- 困っている人がいたら、助けてあげる。(周囲の大人に知らせる。)
- カードに書いてある連絡先に電話をかけてあげる。
- 警察官などに知らせる。



### ♥ 高校生等への理解啓発

- 「特別支援教育の理解啓発推進事業」の機会を活用します。



- 会場内にヘルプカードを紹介するコーナーを設けたり、寸劇でヘルプカードの説明を行ったりするなど、来場者への理解啓発の方法を工夫します。

- ◆ あらゆる機会を積極的に活用して、将来の「共生地域(社会)」の担い手となる児童・生徒への理解啓発を進めることが大切です。

## 地域住民等への理解啓発

♥ 学校周辺の商店の方や、通学の際に児童・生徒が利用する駅の駅員さんなどに、ヘルプカードの説明を行い、理解と協力を求めます。



- ◆ 特別支援学校の児童・生徒だけでなく、支援を必要とする人たちが持っていることを知ってもらうことが大事です。
- ◆ 地域の方々には、児童・生徒がヘルプカードの利用の仕方を学習する時に協力してもらうことも、理解啓発の手だてになります。

♥ 公開講座等の機会を活用します。

- ◆ 例えば、「ボランティア養成講座」でヘルプカードの紹介を行い、カードの内容に基づく具体的な支援の方法を体験します。
- ◆ 様々な講座の参加者に、ヘルプカードについて紹介・説明した資料を配布します。



♥ 防災訓練等の機会を活用します。

- ◆ 地域と連携した防災訓練や、都立特別支援学校の一泊二日宿泊防災訓練などの際に、ヘルプカードを実際に利用することで、障害のある人がヘルプカードを活用する訓練になるとともに、地域住民がヘルプカードを知るきっかけになります。
  - ・ 大規模災害の発生に備え、避難所の運営に携わることが想定される人たちは、ヘルプカードの存在を知っておく必要があります。



♥ このほかにも、自治会の協力を得て、地域の会合で紹介・説明したり、地域住民に理解啓発用の資料を配布したりするなどの方法が考えられます。  
各学校や地域の実情に応じた理解啓発の方法を工夫することが大切です。

学校としての組織的な取組だけでなく、教員一人一人が理解啓発を推進する役割を担っていることを自覚し、ヘルプカードの普及啓発に努めましょう。

